

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1194600134		
法人名	湯現会社 ライフ・ワン		
事業所名	グループホーム スワン		
所在地	埼玉県深谷市東方2873-5		
自己評価作成日	令和 3 年 2 月 18 日	評価結果市町村受理日	令和3年6月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階
訪問調査日	令和 3 年 3 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の理念に「ゆっくり・一緒に・楽しく」を掲げており一人一人が自分のペースで日々を過ごせ、アットホームな雰囲気の中、日常生活を送っている。3食の食事も職員の手作りで作っている。また、その人らしさを尊重しつつ、今出来ていることを維持できるように日々のケアに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長閑な田園地帯の一角にあり、近所には、絶好の散歩コースがある。事業所は、平屋建てであり、ワンユニット9名が日常生活を過ごしている。事業所の理念「ゆっくり、一緒に、楽しく」を掲げ、10時や3時のお茶の時間には、職員共々、会話が弾んでいる。レクリエーションも、みんなで出来る。唄、トランプ、かるた、工作などを、楽しんでいる。今年、コロナ禍で、外出が出来なかった代わりに、午前と午後の2回に分けて、室内でのウォーキングを行って、機能回復に努めている。食事も、職員が、近所の農協から、新鮮な野菜を購入して、手作りで提供している。正月のおせち、バレンタインのケーキ、雛祭りのちらし寿司など、大変喜ばれている。また、医療との連携も、入院出来る病院と提携して、月2回の訪問診察の他に、緊急時は、病院の指示で、往診や入院も可能となっている。職員に、看護師がいることも、安心の体制となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆっくり・一緒に・楽しくを理念に掲げそれに基づき支援している	「ゆっくり、一緒に、楽しく」を事業所の理念としている。利用者第一と考え、10時や3時のお茶の時間には、一緒に飲みながら話をしている。レクリエーションも、全員参加で、無理なく歌や、トランプ、かるた、工作など、みんなで楽しんでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ゴミ出し、近隣の神社への初詣や散歩に出かけ交流をしている	例年は、ゴミ出しや近くの名刹への散歩を日課としていた。近所の人に、野菜やゆずなど貰い交流していた。自治会にも加入、ボランティアも来ていた。コロナ禍で、外出できないので、午前午後の2回室内でのウォーキングを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時に認知症への理解を深められるように支援している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催時に施設の実践状況を報告し意見交換もしている	例年は、2か月に1回開催していた。自治会長を始め、民生委員、事業所の職員などが、参加していた。今年は、コロナ禍で、職員のための打合せ会として、議事録や報告書類を作成して、自治会や、行政の担当窓口へ報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護を受けている方もおり、介護保険証の提示やサービス計画書の提出など密接の関係を築いている	例年は、市役所に出向いて、様々報告を行っていた。今年度は、電話やメールなどで、報告している。コロナ禍で、行政より、マスクや、消毒液、手袋などの、無償配布があり、大変助かっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行なわないのは当然である。玄関の施錠は安全を守る上で内側から施錠しており、利用者も開けられるようになっていく	例年は、運営推進会議の中で「身体拘束廃止委員会」を開いていた。今年は、職員の打ち合わせ会で、様々、虐待や拘束に関して、情報共有している。「ちょっと待って」などの、スピーチロックについても、拘束になるなど、お互い、その都度注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	普段から身体拘束や虐待はしない、変化を見逃さないという意識を持ち支援しており、コミュニケーションも多く取りストレスを溜め込まないようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議の議題に一部取り入れ話し合う		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、契約内容を項目毎に説明をし理解をしていただき、最後に記名、捺印をしていただく		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から家族とのコミュニケーションを取り要望など気楽に話せるような体制を整えている	例年は、運営推進会議などで、家族の意見を汲み取っていた。今年は、面会中止でもあり、家族と小まめに電話連絡をしたり、月1回発行の「スワン通信」に写真を多くして、発信するなど工夫して、家族から、喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の問題点や気づいたことは連絡ノート記入し全職員で解決に取り組んでいる	月1回職員会議を開催している。原則、職員全員参加で行い、カンファレンスも同時に、行っている。手作りのおやつレクリエーションや、きざみ食など様々、意見が出ている。また、法人本社の職員面談も、定期的に行われ、意見を聞き取っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすくする為に勤務時間等、都合に合わせて考慮し、社員、パート共に年2回の賞与を支給している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員間の介護に関する情報を共有し会議で詳細について話し合う		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設の職員と交流し意見交換を行う		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント表に基づき家族や本人の要望を聞き取り可能な限り応えられるようにし、安心な暮らしが出来るように支援している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っている内容等をしっかり聞き取り信頼関係構築に努力している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族が求めていることを可能な限り対応し不安のない生活が出来るように支援する		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護をさせていただいている立場ではあるが、家族同様の関係を構築すると共に信頼関係も築く		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族と何でも話せる関係を築き、家族が悩む事がないように支える		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで本人が大切にしてきた物や人、買い物等、継続できるように支援する	例年は、知人、友人の来訪も多かった。車で自宅や、見慣れた場所にも行っていた。馴染みの床屋に行ったり、みんなで、買い物にも行っていた。今年は、外出が、出来ないが、利用者の好物の、いなりや今川焼など、職員が買ってきている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のコミュニケーションを図れるよう支援し、レクリエーションも全員参加ができる雰囲気を作る		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人及び家族から連絡があった場合は相談に応じています		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス計画作成時に本人、家族に要望を聞きそれに合わせた計画書の作成	契約時、過去の生活歴を始め、趣味や嗜好、入居後どの様に暮らしたいのか、キメ細かく、聞き取っている。入居後は、日々の支援の中で、「何がしたい、どうしたい、何が欲しい」など、聞き取っている。また、文字や2択にして、意向を聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の人生歴や生活環境等を把握し生活指導をする		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	無理の無い様に本人が可能な事のお手伝いや歌、散歩、ゲーム、行事を行ない心身機能向上に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各居室の担当を割り振り、日常生活を把握し会議にて情報共有をしより良い介護を実践する	月1回開催の職員会議の中で、ケアカンファレンスを行っている。連絡ノートの「今日の出来事」を中心に、様々、意見を出し合っている。また、訪問診察のかかりつけ医からの意見も取り入れ、みんなで介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者別に日中、夜間の様子を記録し職員間で状態を共有し今後の介護計画に役立てている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内のサービスに限らず変化に富んだ生活をして頂くように取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	天候の良い日には近隣のお寺に散歩に行き、参拝をしたり、参拝者と話をしたり畑作業の方と話をしたり交流を楽しみます		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今まで通っていたかかりつけ医へ継続的に受診希望があればそのまま受診して頂き、変更可能なら施設の協力医療機関へ紹介状の提出により変更します	提携医療機関があり、月2回訪問診察がある。近隣の病院で、入院も出来る。夜間の急変に対しても、指示を受け、往診も可能である。また、希望者には、訪問歯科もある。また、従来からの、かかりつけ医の人もいて、家族が付き添いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	急変時の場合、看護師への連絡相談し指示を頂き必要に応じ病院へ連絡し主治医の指示を仰ぎます		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日常的に協力医療機関と連携を密にし急変等の場合入院ができるような関係を築いており情報交換に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した利用者は家族と話し合い施設と家族の協力体制を作り、家族の意向も十分に配慮し情報提供を行なう	重度化してきたら、提携医、家族、事業所が、連携を密にして、どこで最後を迎えるか、キメ細かく、打合せしている。事業所としては、まだ、看取りは、行っていないが、職員に、看護師がいて、いつでも、看取りが出来る体制となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時には緊急対応策を職員ができるように周知徹底をする		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の消防訓練を実地し防災に関する意識を高める。自治会の方にも参加を促している。	避難訓練は、年2回行っている。今年は、自主訓練を行い、何分で外に出られるかなどを計ったり、近所の応援もお願いしている。また、近所に河川はなく、ハザードマップなどでも確認している。	ワンユニットであり、利用者は、9名で近所の応援も依頼している。ただし、食料品の備蓄がない。概ね、3日分の飲料水、レトルト食品などの非常食の備蓄をお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人、長年の人生に生き方や暮らし方が異なるので、その人らしく、その人に合った生活が出来るように言葉かけや生活指導に努めている	プライバシーについては、トイレはノックする、ドアは、必ず閉める。写真は、顔を写さないなど、配慮している。また、人生の大先輩である、利用者に対し、敬語で接するようにしている。書類やパソコンなどは、事務室で保管して、鍵をかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、その人らしく利用者本位に物事を考え可能な範囲で自己決定して頂けるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人に合ったペースで日常生活をして頂き、入浴に関しても無理やり強制は行わない		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは利用者の希望に沿って衣類の選択をして頂く。散髪も定期的に来て頂いている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が食べたい物を取り入れている。配膳や下膳をお願いしている	食材は、取り寄せ、野菜は、農協などで購入している。調理は、職員が当番で行っている。出来る人には、手伝いをお願いしている。季節を感じる、正月のおせち、ひな祭りのちらし、誕生会など、イベントごとの食事も楽しみのひとつになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養が偏らないように考慮している。個別に食事摂取や水分量をチェックしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを援助し口腔内の清潔保持に努めており、必要に応じ訪問歯科にかかる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレ誘導を行ないパッドやパンツを汚さないように援助している	排泄チェック表を作成して、定時に、トイレ誘導している。ほとんどの人が自立で、トイレ誘導は、少人数である。定時に、オムツやパッド交換を行っている。退院後の人は、以前の状態に戻す支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便チェック表を利用し水分や食事などで調節をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には入浴日は決めてあるが、本人の都合で日にちの変更は可能となっている	週2回の入浴を基本としている。それ以外も、入りたい時に、入れる。温泉気分を味わうように、入浴剤を使っている。職員と、1対1で会話も弾んでいる。入浴嫌いな人も、あの手この手で、入浴を促している。季節によりゆず湯や菖蒲湯もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午後から昼寝時間になりますが強制ではないので自由に過ごして頂き、別の時間にもお休みする方います。どちらにしても援助している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は全て職員管理にしており、毎服薬援助をし誤薬や飲み忘れがないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干しや、洗濯たたみ、モップ掃除、ゴミ出しなどその人に合った役割をして頂く		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族に協力して頂き外泊や外食に行ったり、個別での買い物、全員での外出等の支援をしている	例年は、日課の散歩で近所の名刹に行ったり、車で公園に行ったり、弁当持参でお花見も楽しんでいた。今年は、コロナ禍で、外出が出来ず、代わりに、1日2回の室内ウォーキングや、パズル、工作、トランプ、おやつレクリエーションなどにも力をいれた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からお小遣いとしてお金を預かり施設管理しており、生活保護の方も全額施設管理をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでもできるようにしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は安心して過ごせるように外の景色や明るさ、室内の温度調節をしている	寛げるリビングは、2か所ある。感染症対策では、定期的に窓を開け、手すりなどを消毒液で掃除している。大きな窓の外には、桜の木や、みかんの木があり、四季を感じることが出来る。壁には、楽しかったイベントの写真等が、飾られている。掃除は、出来る人に手伝ってもらっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室のドアが閉まるようになっており個人の空間も作れるようになっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある物を持ってきていただき使えるようにしている	空調、整理ダンス、ベッドなどは、備え付けられている。在宅の生活の延長で、家族の写真、好きな置物、使い慣れたタンスなど、自由に持ち込んでいる。掃除は、出来る人は、進んで行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ等、手すりを設置しており、各自の出来る力を使って頂けるように見守りをしている		